

平成29年度 農林水産常任委員会管外視察の概要

■視察日 平成30年1月23日(火)～25日(木)

■視察者 農林水産常任委員(7名)
山口 裕(委員長)、橋口海平(副委員長)、村上寅美、
前川 収、前田憲秀、岩田智子、末松直洋

■視察先

- ①農事組合法人むくなし(広島県三原市)
- ②農事組合法人世羅幸水農園(広島県世羅郡世羅町)
- ③山口県水産研究センター内海研究部(山口県山口市)
- ④道の駅萩しーまーと(山口県萩市)
- ⑤T A K E C r e a t e H a g i株式会社(山口県萩市)

■視察目的 ①鳥獣害対策の優良事例、②完全協業体制による大規模果樹経営、③あさりの増殖対策の参考事例、④漁港隣接の道の駅のビジネスモデル、⑤竹製品の高付加価値化の優良事例である上記視察先の現地調査を行うことで、今後の委員会審議の参考とする。

■視察の概要

①農事組合法人むくなし

三原市の鳥獣害対策は、当初は捕獲主体でスタートしたが、思ったような成果が出なかったため、鳥獣の出にくい環境づくりと効果的な進入防止柵の設置を集落全体で行う総合的な取り組みを推進している。

被害防止が成功することで、収穫が増え、営農意欲の向上と所得向上につながる好循環となっている。

組合代表からは、自分たちの土地は自分たちで守るという意識と常に工夫をしていくことが大事という説明があった。



②農事組合法人世羅幸水農園

世羅幸水農園は、早くから梨の直販事業、ジャム等の加工事業、収穫体験の観光農園に取り組み規模を拡大してきた。

特に、若い人達に農業に就いてもらいたいため、週1回の定休日の設定、朝8時から夕方5時までの就労時間の設定、月給制の導入など、これまでの家族的経営から企



業的経営を目指しており、この結果、組合員の家族（跡取り）の就農や正規従業員のうち20代～30代が37%を占めるなど、担い手育成に一定の成果をあげているとの説明があった。

③山口県水産研究センター 内海研究部

同センターでは、所内にある内陸型養殖池（1.5ha）を活用し、アサリ稚貝の施肥による育成と効率的な回収機器の開発を行っている。発酵鶏糞と生ごみを原料とする家畜用のエコフィードを稚貝に与えることにより、一定の成果をあげている。

今後は、コストの更なる削減が課題との説明があった。

また、アサリを捕食するナルトビエイの効果的な駆除を行うには、正確な生態等の情報が必要なことから、標識タグや送信機を使い、回遊経路を調査することで、ある程度の経路の推定が可能となったとの説明があった。



④道の駅萩しーまーと

同道の駅は、漁港併設の道の駅として、地域密着の販売戦略や漁港で大量に水揚げされる多品種の雑魚（ざこ）のブランド化に取り組み、同規模の道の駅としては異例の集客や売り上げを誇っている。

開業前に綿密なマーケティング調査を行い、この調査に基づきしっかりと経営方針を定め、これを実践してきたことが大きいとの説明があった。



⑤ TAKE Create Hagi 株式会社

同社は、竹を環境にやさしい再生可能な素材として、独自の曲げ加工技術により積層成型し、デザイン性に優れた竹製家具を製造している。萩市産100%の竹材を使用し、優れた家具を製造することで、国内販売ばかりでなく、海外にも輸出している。

本県も全国2位の竹材生産量を誇ることから、新たな竹材活用の可能性を探る参考となった。

